

阿南 ぶらりまち紀行 ～地域の輝き～

第110回

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

横見町をきれいにする会



汽車で桑野川鉄橋に差しかかると、車窓からは堤防に描かれたカラフルな壁画や河川敷に広がる四季折々の花畑を見ることが出来る。これは「横見町をきれいにする会」の皆さんの手によるもの。河川敷の環境を美しく保とうと、清掃活動や花の手入れに日々汗を流している。

かつて、この場所は辺り一面に草が生い茂り、タイヤや家具、車などのごみが山積みになって捨てられていた。「何か対策を練らなければと思ったんです」と会長の西野弘行さん（63歳）。まずは清掃活動に取り組んだものの、次々と新しいごみが捨てられてしまう。そこで考えたのが、地域一帯をきれいに保つことと「ごみを捨てられない環境」をめざすものだった。

ごみを徹底的に拾い集めたのち、雑草を抜き、でこぼこだった地面を均等にならした。その後、河川敷に季節の花を植え、地元の子どもたちと協力して、堤防のコンクリートに川の生き物やおとぎ話の登場人物などの壁画を描いていった。

平成10年からこの計画を進め、堤防の壁画は5年間かけて約300メートルにまで伸びた。「この広い場所を整備するのは、気が遠くなるほど地道で大変な作業でした。それでも、少しずつ美しくなっていく空間と反比例するように、捨てられるごみの量がみるみる減っていったんです。環境を変えることで人の意識が変わってきたという証です。そりゃあうれしかったですよ」と、西野さんは笑う。



花壇に植える苗はひとつひとつを種から育てたもの



水やりや草抜きはこまめに行い、美しさを維持している



雑草を抜き、地面をならす前の河川敷の様子（平成10年頃）



堤防に壁画を描く地元の子どもたち（平成13年頃）

平成13年からは、地域イベント「桑野川ふれあいフェスタ」を開催して住民の交流の場を演出した。手入れの行き届いた河川敷に実際に足を運んでもらい、幅広い世代に環境啓発を訴える試みだった。

最近では、捨てられるごみはかつての1割ほどに減ったという。この数字は、河川敷の美しい環境づくりを通し、人の意識を変えるための取組が実を結びつつあるからに違いない。「横見町をきれいにする会」の皆さんが目標とする「ごみを捨てられない環境」まで、あともう一息だ。